

2021年2月 キューバ情勢

【概況】

1 内政

- (1) 自営業対象業種拡大
- (2) マリファナ押収事件

2 外交

- (1) ダルー・ドミニカ国外務大臣との会談
- (2) ムアンバ・コンゴ共和国首相との会談
- (3) 包括的核実験禁止条約（CTBT）の署名・批准
- (4) ユーラシア経済同盟（EAEU）政府間評議会
- (5) グエン・フー・チョン・ベトナム共産党書記長との電話会談
- (6) ムブンバ・ナミビア副大統領との会談
- (7) コロンビア和平に関する外務省声明
- (8) ラムディン・スリナム外務大臣との会談
- (9) ラージャパクサ・スリランカ大統領との会談
- (10) セントビンセント及びグレナディーン諸島との司法支援分野における協力合意
- (11) キューバEU第3回人権対話の開催
- (12) オヨーンエルデネ・モンゴル首相との会談
- (13) 新型コロナウイルス感染症対策のための諸外国へのキューバ人医療団の派遣

3 新型コロナウイルス

- (1) 新型コロナウイルス感染状況等（※2月28日23：59時点、保健省発表）
- (2) 新型コロナウイルス感染症のキューバ国産ワクチン
- (3) 新型コロナウイルス対策に係る規制強化

【本文】

1 内政

- (1) 自営業対象業種拡大

6日、マリア・フェイト労働・社会保障大臣は、現在は127業種のみである自営業対象業種を、124業種については対象外にした上で、それ以外の2000業種を自営業に対して開放すると発表した。

- (2) マリファナ押収事件

13日付 Prensa Latina 紙は、キューバ東部におけるマリファナ押収事件について報じ

た。同紙によれば、沿岸警備隊が、グアタナモ県マイシ市近くの海上において、1トン近くのマリファナを米国に向けて運んでいたバハマ人3人乗りの高速小型艇を検挙した。この地域において、ここ数ヶ月の間に違法薬物を運搬中の小型高速艇が検挙されたのはこれが2件目で、2020年5月以降、Paso de los Vientosで当局が検挙したマリファナ密輸事件としては、4番目に規模の大きい事件であった。

2 外交

(1) ダルー・ドミニカ国外務大臣との会談

1日、ウリセス・フェルナンデス駐ドミニカ国大使は、ケネス・ダルー・ドミニカ国外務大臣と会談した。ダルー外務大臣は、米国による対キューバ経済封鎖を拒絶するという伝統的な立場を再確認した。キューバとドミニカ国は2021年5月18日に外交関係樹立25周年を迎える。

(2) ムアンバ・コンゴ共和国首相との会談

2日、ホセ・ガルシア駐コンゴ共和国大使は、クレマン・ムアンバ・コンゴ共和国首相と会談した。両者は、キューバのテロ支援国家指定を含む、トランプ前米国大統領によって推進された制裁強化について意見交換した。また、南南協力についても話し合われ、2021年末には300名以上のコンゴ共和国の医学生がキューバで卒業する予定であることが言及された。

(3) 包括的核実験禁止条約（CTBT）の署名・批准

4日、キューバ外務省は、キューバが包括的核実験禁止条約（CTBT）に署名・批准したことを発表した。キューバは185番目の署名国、169番目の批准国となった。18日には、包括的核実験禁止条約機構（CTBTO）において、ラシナ・ゼルボ同機構事務局長、Ivo Sramek CTBTO準備委員会議長（在ウィーン代表部チェコ大使）及びロイパ・サンチェス在ウィーン代表部キューバ大使が出席して記念式典が行われた。

(4) ユーラシア経済同盟（EAEU）政府間評議会

5日、ユーラシア経済同盟（EAEU）政府間評議会がカザフスタンのアルマティで開催され、キューバからはマヌエル・マレーロ首相がオンライン形式で出席した。同首相は、昨年12月11日に正式決定されたキューバのEAEUオブザーバー加盟の重要性を強調した。同会議には、フリオ・ペニャ駐ロシア大使もEAEU代表部大使として参加した。

(5) グエン・フー・チョン・ベトナム共産党書記長との電話会談

8日、ラウル・カストロ共産党第一書記は、グエン・フー・チョン・ベトナム共産党書記長と電話会談を行った。第13回ベトナム共産党大会後に行われた同会談にて、ラウル・

カストロ第一書記は、グエン・フー・チョン書記長の留任に対し祝意を表明し、キューバ革命に対するベトナムの無条件の支持に対し、謝意を表明した。また、双方は、両国とその国民、党及び政府を結束してきた60年に亘る模範的な友情、連帯、相互信頼関係を強調するとともに、フィデル・カストロ及びホーチミンにより築かれた歴史的な兄弟関係を引き続き強化していく意志を再確認した。

（６）ムプンバ・ナミビア副大統領との会談

10日、シデニオ・アコスタ駐ナミビア大使は、ナンゴロ・ムプンバ・ナミビア副大統領と会談した。アコスタ大使は、ナミビアによるキューバのヘンリー・リーブ国際医療団に対するノーベル平和賞授与支持に謝意を表明した。

（７）コロンビア和平に関する外務省声明

13日、外務省は「コロンビア和平—公約、一貫性と責任」と題する、コロンビア和平に関する外務省声明を発表した。同声明では、コロンビアの民族解放軍（E L N）による首都ボゴタでのテロ情報を入手した在コロンビア・キューバ大使館とコロンビア外務省との一連のやり取りの経緯を説明するとともに、キューバはコロンビア和平実現に向けだ努力に何十年にもわたって参画してきており、コロンビアによるキューバに対する度重なる非難こそ、国際法に反するものであるとの立場が表明された。

（８）ラムディン・スリナム外務大臣との会談

18日、イゴール・アスクイ駐スリナム大使は、アルバード・ラムディン・スリナム外務大臣と会談した。同会談では、来るラムディン外務大臣及びアマール・ラマディン保健大臣によるキューバ訪問の準備状況について話し合われた。

（９）ラージャパクサ・スリランカ大統領との会談

22日、ファナ・ラモス駐スリランカ大使は、ゴタバヤ・ラージャパクサ・スリランカ大統領と会談した。ラモス大使は、米国による制裁への闘いに対するスリランカの変わらぬ支持に謝意を表明した。また、18日、ラモス大使は、ラージャパクサ大統領との会談に先立ち、ディネーシュ・グナワルダナ外務大臣とも会談した。

（１０）セントビンセント及びグレナディーン諸島との司法支援分野における協力合意

23日、ラルフ・ゴンザルベス・セントビンセント及びグレナディーン諸島首相とホセ・レイバ駐同国大使は、司法支援分野における両国間の協力合意に署名した。

（１１）キューバEU第3回人権対話の開催

26日、政治対話及び協力に関する合意（ADPC）の枠組みの第3回人権対話がオン

ライン形式で開催された。EU側はイーモン・ギルモア人権担当特別代表が、キューバ側はマリア・デル・カルメン・エレラ外務省多国間問題・国際法総局長代行が、それぞれ代表を務めた。同対話は、相互尊重の雰囲気の中で行われ、市民、政治、経済、社会及び文化に関する権利のほか、多国間協力及び国連における人権メカニズムについて話し合われた。これまで同様、議論されたテーマに対する異なった立場や見方が明らかとなったが、双方の平等な主権、独立、合法性及び内政不干渉の完全なる尊重の下、こういったテーマについて話し合いを継続するという双方の意志が再確認された。また、同対話に先立ち、25日にはキューバ及び欧州の市民社会代表の会合が開始された。

(12) オヨーンエルデネ・モンゴル首相との会談

26日、ラウル・デルガド駐モンゴル大使は、ロヴサンナムスライ・オヨーンエルデネ・モンゴル首相と会談した。デルガド大使は、同首相就任に対するマレーロ首相から祝意を伝達した。キューバとモンゴルは2020年に外交関係樹立60周年を迎えた。

(13) 新型コロナウイルス感染症対策のための諸外国へのキューバ人医療団の派遣

キューバ政府発表（大統領府、外務省発表及び政府系メディア含む）によると、2月末時点でのキューバ人医療団の派遣先国は以下のとおり（すでにキューバに帰国している医療団も含む）。

- ・ 英国領アンギラ
- ・ 仏領マルティニーク
- ・ 英国領バージン諸島
- ・ 英国領モンセラット
- ・ アンティグア・バーブーダ
- ・ グレナダ
- ・ セントルシア
- ・ セントクリストファー・ネービス
- ・ セントビンセント及びグレナディーン諸島
- ・ バルバドス
- ・ ドミニカ
- ・ トリニダード・トバゴ
- ・ ハイチ
- ・ 英国領タークス・カイコス諸島
- ・ ジャマイカ
- ・ ベリーズ
- ・ スリナム
- ・ メキシコ

- ・ホンジュラス
- ・ニカラグア
- ・パナマ
- ・ベネズエラ
- ・ペルー
- ・トーゴ
- ・赤道ギニア
- ・エスワティニ王国
- ・南アフリカ
- ・アンゴラ
- ・サントメ・プリンシペ
- ・カーボベルデ
- ・ケニア
- ・ギニア共和国
- ・ギニア・ビサウ
- ・シエラ・レオネ
- ・アンドラ
- ・イタリア
- ・アゼルバイジャン
- ・カタール
- ・クウェート

3 新型コロナウイルス

(1) 新型コロナウイルス感染状況等 (※2月28日23:59時点、保健省発表)

ア 感染者累計：50590名

イ 死亡者数：324名

ウ 退院者数：46106名

エ 自国帰国者数：54名

オ 国外搬送者数：2名

カ 入院中：4104名 (うち、危篤23名、重篤39名)

(2) 新型コロナウイルス感染症のキューバ国産ワクチン

19日付ニューヨーク・タイムズ紙インターネット版は、「キューバは科学的成果達成に近づいている：COVID-19 に対するワクチン生産」と題して、キューバにおける新型コロナウイルス・ワクチン開発について報じた。同報道によれば、キューバは同国の科学者が開発する新型コロナウイルス・ワクチンの1つである「ソベラナ02 (SOBERANA02)」の治験

の最終段階に入るところであり、政府によれば、全国民のほか、（同国を訪問する）観光客に対しても接種できる可能性がある。「ソベラナ02」は既に治験の2段階を終了しており、キューバ及びイランにおいて15万人ほどに対して行う治験の第3段階に入ろうとしている。イランはキューバ産ワクチンの獲得に関心を示しており、メキシコも第3段階の治験に参加するべくキューバとの話し合いを行っている。政府は楽観的で、2021年中に1億回分の接種量を生産することができるとしており、これは全国民1,100万人を十分カバーするほか、海外からの渡航者もカバーできるかもしれない量である。

（３）新型コロナウイルス対策に係る規制強化

4日、ハバナ県防衛理事会は、2月5日以降、21時から5時の間、すべての人及び車両の移動を規制する旨発表した。同措置は、新型コロナウイルスの感染状況が落ち着くまで継続される。